2026年度

シラバス

新潟大学大学院医歯保健学研究科

健康科学専攻

口腔保健福祉学プログラム

（博士前期課程・博士後期課程）

目　　次　Index

授業暦 ---------- 1

成績評価基準 ---------- 2

博士前期課程

授業科目一覧，時間割 ---------- 3

専攻共通科目 ---------- 6

プログラム共通科目群 ---------- 8

プログラム専門科目群 ---------- 12

博士後期課程

授業科目一覧，時間割 ---------- 42

専攻共通科目 ---------- 44

プログラム共通科目群 ---------- 46

プログラム専門科目群 ---------- 50

担当教員名簿

授　業　暦

令和８年度新潟大学大学院医歯保健学研究科、医歯学総合研究科（歯学系）授業暦

■は，休業（講）日を示す。　　□は，授業振替日を示す。

（ ）は，試験日を示す。　　下線は，補講日等を示す。

第１学期

	日	月	火	水	木	金	土	事　項
４月				1	2	3	4	4/3 入学式，ガイダンス
	5	6	7	8	9	10	11	4/8 第1学期授業開始
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
５月						1	2	**5/7 月曜日授業振替**
	3	4	5	6	7	8	9	**5/8 火曜日授業振替**
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
６月		1	2	3	4	5	6	6/1　開学記念日
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					
７月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	(28)	29	(30)	(31)		
８月							1	
	2	(3)	4	(5)	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	8/11～9/30　夏期休業
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						
９月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	9/24　秋季卒業式
	27	28	29	30				
授業週数		16	16	16	16	16		

第２学期

	日	月	火	水	木	金	土	事　項
10月					1	2	3	10/1　秋季入学式
	4	5	6	7	8	9	10	10/2 第2学期授業開始
	11	12	13	14	15	16	17	**10/13 月曜日授業振替**
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	3	4	5	6	7	**11/6　火曜日授業振替**
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
12月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			12/27～1/6　冬期休業
１月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	**1/14 月曜日授業振替**
	17	18	19	20	21	22	23	**1/22 月曜日授業振替**
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
２月		1	2	(3)	(4)	(5)	6	
	7	(8)	(9)	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28							
３月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	3/11～3/31　春期休業
	21	22	23	24	25	26	27	3/23　卒業式
	28	29	30	31				
授業週数		16	16	16	16	16		

成績評価基準

成績の評価と基準

授業科目の評価は，100 点満点をもって評価され，60 点以上を合格，59 点以下は不合格となります。合格すると所定の単位が与えられます。

成績の評語は，80 点以上を「A」，79～70 点を「B」，69～60 点を「C」，59～0 点を「D」とします。

成績評価の基準は，次のとおりです。

点数	評語	基準
100 点～80 点	A	授業科目の目標に十分に達している。
79 点～70 点	B	授業科目の目標に照らして一定の水準に達している。
69 点～60 点	C	授業科目の目標の最低限を満たしている。
59 点～0 点	D	授業科目の目標の最低限を満たしていない。

博 士 前 期 課 程

授 業 科 目 一 覧
時　間　割

口腔保健福祉学プログラム 博士前期課程

科目区分	授業科目の名称	単位数		対象年次	開講学期
		必修	選択		
専攻共通科目	リサーチ・メソッズ・ベーシック	2		1	1学期
プログラム共通科目（4単位以上）	生命医療科学総論		2	1	1学期
	医療福祉援助学総論		2	1	1学期
プログラム専門科目群	口腔保健福祉学研究論		2	1	2学期
	専門英文読解		2	1	2学期
	一般口腔保健管理学Ⅰ		2	1	1学期
	一般口腔保健管理学Ⅱ		2	1または2	通年
	特殊口腔保健管理学Ⅰ		2	1	2学期
	特殊口腔保健管理学Ⅱ		2	1または2	通年
	摂食嚥下機能評価支援学		2	1または2	通年
	口腔保健の疫学と統計		2	1	2学期
	口腔健康教育入門		2	1	1学期
	地域歯科保健活動		2	1	2学期
	口腔保健活動展開論		2	2	1学期
	保健福祉計画演習		2	2	1学期
	口腔保健医療福祉援助論		2	1	2学期
	口腔保健医療福祉制度		2	1	2学期
	医療福祉援助技術論		2	2	1学期
	口腔医療福祉政策学		2	1	1学期
	地域福祉活動		2	1	2学期
	特別研究Ⅰ（口腔保健福祉）		2	1	2学期
	特別研究Ⅱ（口腔保健福祉）		8	2	通年

2026年度　大学院医歯保健学研究科　　口腔保健福祉プログラム　（　博士前期　１年生　）

学年	曜日	学期	Ⅰ限(8:45～10:15)	Ⅱ限(10:30～12:00)	Ⅲ限(13:00～14:30)	Ⅳ限(14:45～16:15)	Ⅴ限(16:30～18:00)	Ⅵ限(18:10～19:40)	Ⅶ限(19:45～21:15)
1年次	月	第1期	一般口腔保健管理学Ⅱ※ （濃野）					医療福祉援助学総論 （中村，他）	
		第2期	一般口腔保健管理学Ⅱ※ （濃野）	口腔保健医療福祉援助論 （松本）	特別研究Ⅰ		口腔保健の疫学と統計 （濃野）	摂食嚥下機能評価支援学※ （山村、井上）	特別研究
	火	第1期				医療福祉援助学総論 （中村、他）	口腔医療福祉政策学 （黒川）	口腔健康教育入門 （諏訪間）	
		第2期		摂食嚥下機能評価支援学※ （山村、井上）	特別研究Ⅰ		地域歯科保健活動 （濃野）	口腔保健福祉学研究論 （ステガロユ、他）	口腔保健の疫学と統計 （濃野）
	水	第1期						口腔医療福祉政策学 （黒川）	
		第2期			特別研究Ⅰ		特殊口腔保健管理学Ⅰ （小田島）	口腔保健医療福祉援助論 （松本）	特別研究
	木	第1期		口腔健康教育入門 （諏訪間）		生命医療科学総論 （米澤、他）	一般口腔保健管理学Ⅰ （吉羽）	生命医療科学総論 （米澤、他）	一般口腔保健管理学Ⅰ （吉羽）
		第2期		口腔保健福祉学研究論 （ステガロユ、他）		口腔保健医療福祉制度 （大内）	地域福祉活動 （中村）	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ
	金	第1期	特殊口腔保健管理学Ⅱ※ （小田島）	ﾘｻｰﾁ・ﾒｿｯｽﾞ・ﾍﾞｰｼｯｸ （ステガロユ、他）				ﾘｻｰﾁ・ﾒｿｯｽﾞ・ﾍﾞｰｼｯｸ （ステガロユ、他）	
		第2期	特殊口腔保健管理学Ⅱ※ （小田島）				専門英文読解 （ステガロユ）	専門英文読解 （ステガロユ）	特殊口腔保健管理学Ⅰ （小田島）
	土	第1期							
		第2期	地域歯科保健活動 （濃野）	口腔医療福祉制度 （大内）	地域福祉活動 （中村）	特別研究Ⅰ			

※　一般口腔保健管理学Ⅱ、特殊口腔保健管理学Ⅱ、摂食嚥下機能評価支援学、特別研究は各担当教員の指示により時間割りを設定。

2026年度　大学院医歯保健学研究科　　口腔保健福祉プログラム　（　博士前期　２年生　）

学年	曜日	学期	Ⅰ限(8:45～10:15)	Ⅱ限(10:30～12:00)	Ⅲ限(13:00～14:30)	Ⅳ限(14:45～16:15)	Ⅴ限(16:30～18:00)	Ⅵ限(18:10～19:40)	Ⅶ限(19:45～21:15)
2年次	月	第1期	一般口腔保健管理学Ⅱ※ （濃野）		特別研究Ⅱ		口腔保健活動展開論 （柴田）	口腔保健活動展開論 （柴田）	
		第2期	一般口腔保健管理学Ⅱ※ （濃野）		特別研究Ⅱ			摂食嚥下機能評価支援学※ （山村、井上）	特別研究Ⅱ
	火	第1期		保健福祉計画演習 （島田）				保健福祉計画演習 （島田）	
		第2期		摂食嚥下機能評価支援学※ （山村、井上）				特別研究Ⅱ	
	水	第1期			特別研究Ⅱ			特別研究Ⅱ	
		第2期			特別研究Ⅱ			特別研究Ⅱ	
	木	第1期	特別研究Ⅱ		特別研究Ⅱ			特別研究Ⅱ	
		第2期	特別研究Ⅱ		特別研究Ⅱ			特別研究Ⅱ	
	金	第1期	特殊口腔保健管理学Ⅱ※ （小田島）				医療福祉援助技術論※ （米澤）	医療福祉援助技術論※ （米澤）	
		第2期	特殊口腔保健管理学Ⅱ※ （小田島）					特別研究Ⅱ	
	土	第1期			特別研究Ⅱ				
		第2期	特別研究Ⅱ		特別研究Ⅱ				

※　一般口腔保健管理学Ⅱ、特殊口腔保健管理学Ⅱ、摂食嚥下機能評価支援学、医療福祉援助技術論、特別研究Ⅱは各担当教員の指示により時間割りを設定。

専 攻 共 通 科 目

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1003	1	金／2	2	講義・演習
260W2003		金／6		
授業科目名	リサーチ・メソッズ・ベーシック			
コーディネーター	ステガロユ・ロクサーナ　准教授（口腔生命福祉学専攻口腔保健学分野）			
担当教員	濃野　要　教授　（口腔生命福祉学専攻口腔保健学分野） 野中　由香莉　教授　（口腔生命福祉学専攻口腔保健学分野） ステガロユ・ロクサーナ　准教授（口腔生命福祉学専攻口腔保健学分野）			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】

口腔保健全般に渡る基礎的な知識および現状と動向について、最新の研究成果やトピックも交えながら講義する。また、口腔保健・医療福祉分野における研究・調査手法や分析法など、研究を遂行するにあたって必要となる基本知識を体系的なコースワークにより学修する。

【科目のねらい】

口腔保健全般に渡る基礎的な知識および現状を始めとした研究を遂行するにあたって必要となる基本知識を習得する。

【学習の到達目標】

・口腔保健・医療福祉分野におけるテーマについて適切に文献検索ができる。
・口腔保健・医療福祉分野における研究・調査手法と分析法を説明できる。
・う蝕・歯周病をはじめとした歯科・口腔疾患の病因と予防管理法を説明できる。
・歯周病をはじめとした歯科・口腔疾患と全身疾患の関連を説明できる。
・歯科保健分野における疫学研究の方法を説明できる。
・歯科保健・医療福祉分野における統計的データ解析法を説明できる。

【学習方法・学習上の注意】

各授業内容について概略説明した後、関連する文献について演習する。

【授業計画】

日時	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
4/10 4/17	研究法入門①（口腔保健・医療福祉分野における研究の考え方・進め方）	参考図書①第 2 章の要点整理	ロクサーナ
4/24 5/1 5/15	研究法入門②（文献検索、研究・調査手法、分析法）	各自の研究テーマに関連する文献検索、検索結果の整理	ロクサーナ
5/22 5/29	歯科保健における疫学	講義プリントの要点整理	濃野
6/5 6/12 6/19 6/26	主な歯科・口腔疾患と予防管理	講義プリントの要点整理	野中
7/3 7/10	臨床歯周病学	講義プリントの要点整理	野中
7/17 7/24	統計的データ解析法	講義プリントの要点整理	濃野
7/31	まとめ	レポートの草案	ロクサーナ

【成績評価の方法と基準】
各担当教員が課す口頭試問またはレポートで判定（100%）する。
【使用テキスト・参考図書等】
【参考図書】
① 歯科衛生研究の進め方・論文の書き方（第 2 編），武井典子ら編（医歯薬出版）（2,900 円）
【生成 AI の利用について】
本科目で生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）を利用する場合は、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

プログラム共通科目群

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1105	1	木／4	2	講義
260W2105		木／6		
授業科目名	生命医療科学総論			
コーディネーター	米澤　大輔　准教授			
担当教員	米澤　大輔　准教授 宮坂　道夫　教授 小川　祐司　教授 大内　章嗣　教授 吉羽　永子　教授 濃野　要　教授 黒川　孝一　准教授			
講義・演習場所	ミーティングルーム C707（C 棟 7 階）あるいは各担当教員が指定する場所 ＊ 履修生各自は個々の教員と連絡を取り、講義日時やレポート課題の指示を受けること。			

【科目の概要】
口腔の健康と全身の健康の関係、全身管理に必要な基本知識および生命医療倫理を含め、生命医療科学を取り巻く背景、現状と課題、今後の動向について、最新の研究成果などを踏まえながらオムニバス形式で講義あるいはレポート課題を課す。

【科目のねらい】
口腔保健管理を進めていくために、口腔疾患、全身管理、生命倫理、社会資源等の生命医療科学の基本的知識を理解する。

【学習の到達目標】
・感染予防および全身管理の基本が説明できる。
・口腔疾患と全身疾患との関連が説明できる。
・う蝕および関連疾患の病因・病態、治療、予防について説明できる。
・歯科医療経済および社会資源について説明できる。
・行政における地域口腔保健施策について説明できる。
・生命医療倫理の基礎的理論が説明できる。

【学習方法・学習上の注意】
講義により知識を教授する。また、講義内容に関する教員との討論を通じで理解を深める。

【授業計画】

日時	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
4/ 9 4/16	口腔保健管理を進めていくために必須の知識・技術である感染予防および全身管理に関し、最新の知見に基づいて教授する。	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	米澤
4/23 4/30	口腔疾患と全身健康状態の関連について、その根拠となる最新の研究成果を踏まえ解説するとともに、将来的な展望について講義する。	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	小川
5/14 5/21	歯周疾患の病因・病態、治療および予防管理について最新の研究成果を踏まえ解説し、今後の展望について述べる。	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	濃野
5/28 6/ 4	地域口腔保健の向上を目指した行政および関係団体等の取組みの実際を紹介するとともに、現状の課題および今後の展望について解説する。	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	黒川

6/11 6/18	医療経済および社会システム（社会資源）的側面からの口腔生命医療の現状と課題について、最新の知見を踏まえ講義する。	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	大内
6/25 7/ 2	う蝕およびこれに起因する関連疾患の病因・病態、治療および予防管理について最新の知見を踏まえ講義する。	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	吉羽
7/ 9 7/16	インフォームドコンセントや自己決定など生命医療倫理に関する基礎的理論、歴史、関係法規について講義する。	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	宮坂
8/ 6	全体総括	これまでの学習内容を復習しておくこと。	米澤

【成績評価の方法と基準】
各担当教員が課す口頭試問またはレポートで判定（100%）する。

【使用テキスト・参考図書等】
・各講師からの推薦あるいは指定図書
・配布資料あるいは論文別刷

【生成 AI の利用について】
本科目では、生成 AI(ChatGPT、Gemini 等)の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。
1. レポート等での利用は情報収集にとどめ、本文の作成には使用しないこと。論文検索等で使用した場合は、どの部分で、どのような目的(質問のプロンプト等)で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用(許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など)が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1106	1	月／6	2	講義・演習
260W2106		火／4		
授業科目名	医療福祉援助学総論			
コーディネーター	中村　　健　准教授			
担当教員	大内　章嗣　教　授 野中由香莉　教　授 未定 米澤　大輔　准教授 中村　　健　准教授			
講義・演習場所	口腔保健福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
　口腔保健・医療福祉援助の根拠となる関連諸制度と、援助対象者を理解するための専門的な知見の基礎的な枠組みを学ぶ。（オムニバス方式／全 15 回）

【科目のねらい】
　口腔保健福祉を専攻し高度専門的な対人援助を学ぶ大学院生に必須な関連領域の基礎概念等を理解する。

【学習の到達目標】
　学習した概念や理論を、具体の事例に基づいて説明する。

【学習方法・学習上の注意】
　資料については事前に配布するので、あらかじめその内容に関連する情報を収集し、基本的知識を整理したうえで講義に臨むこと。

【授業計画】

日		講義内容	授業時間外の学修	担当教員
月/6	火/4			
4/13	4/14	地域口腔保健を進めるためのアセスメント・計画・実施・評価に関する基本的考え方とその応用①	関連する情報の収集	大内
4/20	4/21	地域口腔保健を進めるためのアセスメント・計画・実施・評価に関する基本的考え方とその応用②	前回の復習	大内
4/27	4/28	食育支援、介護予防、喫煙について根拠となっている法規の概要、これらの施策と歯科保健の関連	関連する情報の収集	野中
5/7	5/8	食育支援、介護予防、喫煙について歯科保健活動としての取り組み事例の紹介	前回の復習	野中
5/11	5/12	障害者等への歯科衛生士･社会福祉士の視点から考えた支援①	関連する情報の収集	米澤
5/18	5/19	障害者等への歯科衛生士･社会福祉士の視点から考えた支援②	前回の復習	米澤
5/25	5/26	ソーシャルワークと関連法令①	関連する情報の収集	中村
6/1	6/2	ソーシャルワークと関連法令②	前回の復習	中村
6/8	6/9	唇顎口蓋裂患者への対応を題材とした、関係者および関係機関の役割分担と連携の実際①	関連する情報の収集	未定

6/15	6/16	唇顎口蓋裂患者への対応を題材とした、関係者および関係機関の役割分担と連携の実際②	前回の復習	未定
6/22	6/23	口腔保健医療福祉援助に関わる関係職種の業務と成り立ち	関連する情報の収集	大内
6/29	6/30	地域ケア体制のなかでの口腔保健医療の位置づけ	前回の復習	大内
7/6	7/7	ソーシャルワーク実践事例の検討①	関連する情報の収集	中村
7/13	7/14	ソーシャルワーク演習事例の検討②	前回の復習	中村
7/27	7/21	ソーシャルワーク演習事例の検討③	前回の復習	中村
8/3	7/28	まとめとフィードバック	既学習内容の整理	中村

【成績評価の方法と基準】

各担当教員が課す口頭試問またはレポートで判定（100%）する。

【使用テキスト・参考図書等】

特に指定しないが、教科書、文献、インターネットなど、さまざまな教育資源を使用し自己学習する。

【生成 AI の利用について】

本科目では、生成 AI(ChatGPT、Gemini 等)の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。

1. レポート等での利用は情報収集にとどめ、本文の作成には使用しないこと。論文検索等で使用した場合は、どの部分で、どのような目的(質問のプロンプト等)で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用(許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など)が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

プログラム専門科目群

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1301	2	木／2	2	講義・演習
260W2301		火／6		
授業科目名	口腔保健福祉学研究論			
コーディネーター	ステガロユ・ロクサーナ　准教授			
担当教員	大内　章嗣　教授 島田　久幸　教授 中村　健　准教授 ステガロユ・ロクサーナ准教授			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
口腔保健・医療福祉全般に渡る基礎的な知識および現状と動向について、最新の研究成果やトピックも交えながら講義する。また、口腔保健・医療福祉分野における研究・調査手法や分析法など、研究を遂行するにあたって必要となる基本知識を体系的なコースワークにより学修する。

【科目のねらい】
口腔保健・医療福祉全般に渡る基礎的な知識および現状を始めとした研究を遂行するにあたって必要となる基本知識を習得する。

【学習の到達目標】
・口腔保健・医療福祉分野における研究計画について説明できる。
・口腔保健・医療福祉分野における論文作成法について説明できる。
・口腔インプラントによる摂食機能の再建と維持について説明できる。
・社会保障制度の動向と今後の展望について説明できる。
・地域福祉保健論と援助の展開について説明できる。
・地域に根ざしたソーシャルワークの方策を説明できる。

【学習方法・学習上の注意】
各授業内容について概略説明した後、関連する文献について演習する。

【授業計画】

日時		講義内容	授業時間外の学修	担当教員
木 2 限	火 6 限			
10/8	10/6	研究法入門（研究計画、論文作成法）	参考図書①第 3 章の要点整理	ロクサーナ
10/15	10/20			
10/22	10/27			
10/29	11/6			
11/5	11/10			
11/12	11/17			
11/19	11/24	摂食機能再建学概論	参考図書②第 4,5 章の要点整理	ロクサーナ
11/26	12/1			
12/3	12/8	社会保障制度の動向と今後の展望	平成 29 年厚生労働省白書第 1 部の要点整理	大内
12/10	12/15			
12/17	12/22			
12/24	1/12	地域福祉保健論と援助の展開①	詳細は授業で指示する。	島田
1/7	1/19			
1/21 1/28	1/26 2/2	地域福祉保健論と援助の展開②	詳細は授業で指示する。	中村
2/4	2/9	まとめ	レポートの草案	ロクサーナ

【成績評価の方法と基準】
各担当教員が課す口頭試問またはレポートで判定（100%）する。
【使用テキスト・参考図書等】
【参考図書】
① 歯科衛生研究の進め方・論文の書き方 第2編，武井典子ら編（医歯薬出版）（2,900円）
② よくわかる口腔インプラント学　第3版　赤川安正ら編（医歯薬出版）（10,000円）
【生成AIの利用について】
本科目で生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）を利用する場合は、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1302	2	金／5	2	演習
260W2302		金／6		
授業科目名	専門英文読解			
コーディネーター	ステガロユ・ロクサーナ　准教授			
担当教員	ステガロユ・ロクサーナ　准教授			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
口腔保健福祉分野における英語論文を題材に、個別的なコースワークにより専門用語・表現を中心に英語論文読解力の習熟を図る。

【科目のねらい】
口腔保健福祉分野で一般的に用いられる英語の専門用語・表現および英語論文の基本的な構成を理解し、当該英語論文の要点を的確に読解する能力を身につける。

【学習の到達目標】
- 口腔保健福祉分野において一般的に用いられる英語の専門用語・表現を理解する。
- 口腔保健福祉分野における英語論文の基本的な構成および論理を理解する。
- 口腔保健福祉分野における当該英語論文の要点を正確かつ要領よく読解できる。

【学習方法・学習上の注意】
提示された英語論文をもとに口腔保健福祉分野における重要な英語の専門用語・表現、論理構成等について演習形式で学習する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1-2	ガイダンスおよび口腔保健分野における重要な英語の専門用語学習	口腔保健分野における英語の専門用語集の熟読	ロクサーナ
3-4	福祉分野における重要な英語の専門用語学習	福祉分野における専門用語の整理	
5-6	英語論文の例を用いた読解演習（口腔保健分野における英語論文を素早く読み取るための重要なポイント）	提示された英語論文（概要）の読解	
7-8	英語論文の例を用いた読解演習（福祉分野における英語論文を素早く読み取るための重要なポイント）	提示された英語論文（概要）の読解	
9-15	各自の研究テーマに関する英語論文読解（個別指導）	各自の研究テーマに関する英語論文を検索・選択	
16	まとめ	レポート（草案）作成	

【成績評価の方法と基準】
英語論文に関するレポートで判定（100%）する。

【使用テキスト・参考図書等】
・専門用語集および関連資料を必要に応じ、適宜に提示する。

【生成 AI の利用について】
本科目で生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）を利用する場合は、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1303	1	木／5	2	講義・演習
260W2303		木／7		
授業科目名	一般口腔保健管理学Ⅰ			
担当教員	吉羽　永子　教授			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7F）ほか			

【科目の概要】
広く一般人を対象とした齲蝕、歯周病などの口腔疾患の予防・治療・メインテナンスに関する最新の知見・技術について学習するとともに、齲蝕、歯周病を中心とした口腔疾患の予防管理に関連する最新の研究成果を交えて当該分野における研究デザイン、解析技法等について理解する。

【科目のねらい】
歯科の２大疾患である齲蝕と歯周病の保健管理を実践するためにそれらの予防、治療やメインテナンスに関する最新のエビデンスと研究を理解する。

【学習の到達目標】
・齲蝕と歯周病の疾病構造の変化を説明することができる。
・歯冠部齲蝕と根面齲蝕の特徴を説明することができる。
・１次予防法と２次予防法を説明することができる。
・各ライフステージにおける齲蝕と歯周病の予防管理を説明することができる。

【学習方法・学習上の注意】
講義および関連資料・論文の抄読、討論を行う。事前に提示された参考資料・関連論文をもとに基本的知識を整理した上で授業に出席する必要がある。初回授業時に準備学習の概要を指示し、各回の準備学習の内容の詳細については各授業終了時に指示する。
なお、必要に応じて Zoom 会議システムを用いたリアルタイム型オンライン授業を実施する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	講義資料の要点整理	吉羽
2-5	齲蝕と歯周病の疾病構造の変化	講義資料の要点整理、参考図書による基本的知識の整理、関連論文の検索との要点整理	
6-8	歯冠部齲蝕と根面齲蝕の特徴	講義資料の要点整理、参考図書による基本的知識の整理、関連論文の検索との要点整理	
9-11	１次予防法と２次予防法	講義資料の要点整理、参考図書による基本的知識の整理、関連論文の検索との要点整理	
12-14	齲蝕と歯周病の予防管理	講義資料の要点整理、参考図書による基本的知識の整理、関連論文の検索との要点整理	
15-16	総括・レポート発表	レポート作成と発表の準備	

【成績評価の方法と基準】
レポート（100%）で判定する。

【使用テキスト・参考図書等】
・Ole Fejerskov, Edwina Kidd 編: デンタルカリエス: その病態と臨床マネージメント, 医歯薬出版, 2013.
・Jan Lindhe, Thorkild Karring, Niklaus P. Lang 編著: Lindhe 臨床歯周病学とインプラント 第4版, クインテッセンス出版, 2005.

【生成AIの利用について】
本科目では、レポート作成にあたり生成AIの利用を認めますが、内容に関する最終的な判断は、学生自身の知識と考察に基づいて行うものとします。

開講番号	学期	曜／限	単位
260W1304	1	月／１※	2
260W2304	2	月／１※	
授業科目名	一般口腔保健管理学Ⅱ		
コーディネーター	濃野　要　　教授		
担当教員	濃野　要　　教授 杉田　典子　　助教		
講義・演習場所	医歯学総合病院お口の健康室		

【科目の概要】
歯周病・う蝕を中心とした口腔疾患の予防管理に関して、その病因およびリスクファクターの分析、予防管理法とその効果の評価について、医歯学総合病院等において実習を行う。

【科目のねらい】
歯周病・う蝕を中心とした口腔疾患の予防管理に関して、その病因およびリスクファクターの分析、予防管理法とその効果の評価について、医歯学総合病院等において実習を通じて理解、習得する。

【学習の到達目標】
・歯周病・う蝕の病因を説明できる。
・歯周病・う蝕のリスクファクターを説明できる。
・歯周病・う蝕の予防管理法を説明できる。
・歯周病・う蝕の予防法を実践できる。

【学習方法・学習上の注意】
実習を通じて学習可能な知識、技術を習得する。

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	詳細は予め指示する。	濃野
2-16	う蝕および歯周基本治療の実践と評価法の習得、全身疾患を有する患者への対応法の習得	使用テキストの関連ページを参照	濃野 杉田
17-32	歯周外科処置後の管理および Supportive periodontal therapy の実践、並びにそれぞれの評価法の習得	使用テキストの関連ページを参照	濃野 杉田

【成績評価の方法と基準】
口頭試問またはレポートで判定（100%）する。
【使用テキスト・参考図書等】
“Carranza’s Clinical Periodontology” 12th Edition (Elsevier, 2015)
“臨床歯周病学” 第２版（吉江弘正他, 医歯薬出版, 2013）および関連論文

【生成 AI の利用について】
本科目では、課題によって生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用の可・不可が変わります。利用が許可された場合は、以下の点を遵守してください。
1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

※担当教員の指示により時間割を設定

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1305	2	水／5	2	講義
260W2305		金／7		
授業科目名	特殊口腔保健管理学Ⅰ			
担当教員	小田島　あゆ子　助教			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
周術期等口腔機能管理の目的、対象患者および歯科の役割について学習し、多職種連携の重要性や有病者の口腔機能管理の必要性を理解する。

【科目のねらい】
周術期等口腔機能管理に関する基礎知識を習得し、多職種連携の重要性を理解した上で、論文抄読を通して有病者における口腔機能管理の課題について検討する。

【学習の到達目標】
・周術期等口腔機能管理の目的、対象患者および歯科の役割を説明することができる。
・周術期等口腔機能管理における多職種連携の重要性を説明することができる。
・有病者における口腔機能管理の課題について検討することができる。

【学習方法・学習上の注意】
本科目では周術期等口腔機能管理に関する講義を受け、論文抄読を行う。

【授業実施形態】
対面授業または Zoom 会議システムを用いたリアルタイム型オンライン授業を行う。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	詳細は授業で明示する	小田島
2-5	周術期等口腔機能管理の目的、対象患者および歯科の役割	厚生労働省　診療報酬改定の概要の要点整理	
6-9	手術、放射線治療、化学療法、緩和ケアの患者を対象とした周術期等口腔機能管理	厚生労働省　診療報酬改定の概要の要点整理、他	
10-15	周術期等口腔機能管理に関する論文抄読	周術期等口腔機能管理に関する論文の準備	
16	総括	第 15 回までの講義内容の復習	

【成績評価の方法と基準】
授業態度（20%）およびレポート（80%）で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
・厚生労働省　診療報酬改定の概要
・周術期等口腔機能管理の関連論文
【生成 AI の利用について】
生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用を条件付きで許可するが、利用する場合は以下の点を遵守すること。

1. 利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処する。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1306	1	金／1※	2	講義・実習
260W2306	2	金／1※		
授業科目名	特殊口腔保健管理学Ⅱ			
コーディネーター	小田島　あゆ子　助教			
担当教員	小田島　あゆ子　助教			
講義・演習場所	新潟大学医歯学総合病院			

【科目の概要】
代表的な口腔外科疾患について、その病因・病態と治療に関して、口腔外科外来・病棟での患者診療を通して、症例に基づいて学習する。また、全身疾患を有する患者の歯科治療ならびに患者管理・指導について実習を行う。

【科目のねらい】
適切な口腔保健活動を行うために、代表的な口腔外科疾患の病因・病態ならびに治療の実際と、全身疾患を有する患者の歯科治療における注意点を理解する。

【学習の到達目標】
・先天異常ならびに発育異常の病因・病態、治療について説明できる。
・外傷ならびに機能障害の病因・病態、治療について説明できる。
・口腔粘膜疾患の病因・病態、治療について説明できる。
・化膿性炎症疾患の病因・病態、治療について説明できる。
・嚢胞性疾患の病因・病態、治療について説明できる。
・口腔腫瘍および腫瘍類似疾患の病因・病態、治療について説明できる。
・唾液腺疾患の病因・病態、治療について説明できる。
・神経疾患の病因・病態、治療について説明できる。
・全身疾患を有する患者の歯科治療における注意点を説明できる。

【学習方法・学習上の注意】
口腔外科診療のなかで症例に基づいて学習する。また、症例検討を通じて理解を深める。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	学士課程で使用した口腔外科関連の教科書等で、顎口腔領域の疾患について予習しておくこと。	口腔外科外来・病棟歯科医師、歯科衛生士ならびに看護師とともに実習を行う。
2-7	代表的な口腔外科疾患の病因・病態と治療	学士課程で使用した口腔外科関連の教科書等で、顎口腔領域の疾患について予習しておくこと。	
8-11	全身疾患を有する患者の歯科治療	学士課程で使用した口腔外科関連の教科書等で、顎口腔領域の疾患について予習しておくこと。	
12-15	患者管理・指導	学士課程で使用した口腔外科関連の教科書等で、顎口腔領域の疾患について予習しておくこと。	

＊実習日の診療内容により、第１回ガイダンス以外は、必ずしも上記順番とならない。

【成績評価の方法と基準】

観察記録（50%）およびレポート（50%）で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
担当教員が適宜、指示する。
【生成 AI の利用について】
本科目では生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用を条件付きで許可するが、利用する場合は以下の点を遵守すること。
1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処する。

＊担当教員の指示により時間割りを設定

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1307	1	火／2※	2	講義・実習
260W2307		月／6※		

授業科目名	摂食嚥下機能評価支援学
コーディネーター	山村　健介　教授
担当教員	山村　健介　教授 井上　誠　教授
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻大学院演習室（C 棟 7 階）・医歯学総合病院等

【科目の概要】
摂食嚥下障害の評価法、訓練法についてより専門的な講義を行うとともに、摂食嚥下障害に関連する研究成果を交えて当該分野における研究デザイン、解析技法等について解説するとともに、医歯学総合病院等における摂食嚥下障害者の評価・管理法に関する実習を行う。

【科目のねらい】
摂食嚥下障害の評価法、訓練法についてその背景となる神経制御機構や病因論を含め理解するとともに、医歯学総合病院等における実習を通して摂食嚥下障害者の評価・管理法を実践的に修得する。

【学習の到達目標】
・摂食嚥下の制御機構を説明する。
・摂食嚥下障害および味覚障害の病因・病態を説明する。
・摂食嚥下機能および味覚の評価（検査）方法を説明する。
・摂食嚥下障害および味覚障害に対する治療の流れを説明する。
・摂食嚥下障害の病態に応じた食品性状等を説明する。
・摂食嚥下障害患者に対するリハビリテーションおよび指導管理方法を説明する。
・摂食嚥下障害に対応する関係職種の役割と連携の実際を説明する。

【学習方法・学習上の注意】
事前に摂食嚥下障害の病因、病態や評価方法の概略を予習しておくこと。
病院実習を含むため、時限はその都度、調整・指示する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1-4	摂食嚥下障害の機能評価 ・摂食嚥下の神経制御機構 ・摂食嚥下機能の加齢変化 ・摂食嚥下障害の病因・病態 ・咀嚼嚥下関連筋活動の記録・分析法	摂食嚥下に関わる神経制御機構について要点整理。その他詳細は授業時に指示する	山村
5-8	摂食嚥下障害者に対する指導訓練法 ・摂食嚥下障害者に対する食品学的対応 ・摂食嚥下障害者に対する運動機能訓練 ・嚥下誘発実験	摂食嚥下障害に対する指導訓練法の要点整理。その他詳細は授業時に指示する。	山村
9-16	脳血管障害等により生じた摂食嚥下障害および味覚障害の検査・診断・治療・リハビリテーションの考え方と手法について、リスク管理や関係職種との連携を含め学習する。	詳細は授業時に指示する。	井上

【成績評価の方法と基準】
レポート（50%）および観察記録（50%）で判定する。

【使用テキスト・参考図書等】
金子芳洋（訳）：摂食・嚥下メカニズム UPDATE 構造・機能からみる新たな臨床への展開（医歯薬出版、2006）
山田好秋：よくわかる摂食・嚥下のメカニズム（医歯薬出版、2004）
日本顎口腔機能学会編：よくわかる顎口腔機能（医歯薬出版、2005）
日本咀嚼学会編：咀嚼の本（口腔保健協会、2006）
摂食・嚥下リハビリテーション　第 2 版（才藤栄一　向井美惠監修　医歯薬出版）
歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学（向井美惠　山田好秋編集　医歯薬出版）
やさしい嚥下障害の診療（椿原彰夫編著　永井書店）
【生成 AI の利用について】
　アイデア出しや文献調査の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。また、引用する文献・データは必ず原典を確認し、出典を明記すること 。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1308	2	月／5	2	講義
260W2308		火／7		
授業科目名	口腔保健の疫学と統計			
担当教員	濃野　要　教授			
講義・演習場所	セミナールーム C705 または ミーティングルーム C710			

【科目の概要】
口腔保健に関連した疫学研究について理解し実践できるようになるため，そのデザイン，対象の設定，それに対応した統計学的な解析方法について講義と演習を行う。

【科目のねらい】
衛生・福祉統計学においてその調査研究の実践および分析方法の実践について理解する。

【学習の到達目標】
・衛生・福祉における研究デザインを立てることができる。
・対象の統計的方法に従う抽出ができる。
・コンピューターベースの解析ソフトウェアを用いたデータの基本的な統計的解析ができる。

【学習方法・学習上の注意】
各界の準備学習の具体的内容については、初回は開始前に、それ以降は各授業終了時に指示する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1-3	総論 1）口腔保健の疫学 2）量的研究と質的研究	事前に配布する資料に基づき口腔保健の疫学、量的研究と質的研究について整理する	濃野　要
4-6	地域歯科保健の評価方法 1）地域歯科保健データベース 2）評価における統計解析	事前に配布する資料に基づき地域歯科保健の評価方法について整理する	
7,8	地域疫学調査 　地域差（国際・国内）および社会経済格差に基づいた疫学および健康対策のあり方	事前に配布する資料に基づき地域差および社会経済格差について整理する	
9-11	う蝕予防の疫学と統計（I） 永久歯う蝕予防とフッ化物	事前に配布する資料に基づき永久歯う蝕予防とフッ化物について整理する	
12-15	う蝕予防の疫学と統計（II） 乳歯う蝕予防とフッ化物	事前に配布する資料に基づき乳歯う蝕予防とフッ化物について整理する	
16	口頭試問およびレポートのフィードバック	事前に配布する資料に基づきう蝕予防方法について整理する	

【成績評価の方法と基準】
口頭試問（50%）およびレポート（50%）で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
Burt, Brian A., Eklund, Stephen A.: Dentistry, Dental Practice, and the Community, Saunders; 6 edition, 2005.
Lesaffre, E., ,Jocelyne Feine, J., Leroux, B., Declerck, D.: Statistical and Methodological Aspects of Oral Health Research (Statistics in Practice), Wiley; 1 edition, 2009.
【生成 AI の利用について】
本科目では、課題によって生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用の可・不可が変わります。利用が許可された場合は、以下の点を遵守してください。
1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1309	1	木／2	2	講義・演習
260W2309	1	火／6		
授業科目名	口腔健康教育入門			
担当教員	諏訪間　加奈　助教			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
健康教育では、個人や集団が健康な生活を送るために様々な職種が関り、援助をおこなう。健康教育としての口腔保健活動が実践できるように学習および検討する。

【科目のねらい】
健康教育に関連する理論や最近の研究などを学習する。また、口腔保健活動や行動変容の支援等について検討をおこない、個人や集団に適した口腔保健活動の計画や実践を目指す。

【学習の到達目標】
・健康の概念を説明できる。
・健康教育に関連する理論を説明できる。
・健康教育に関連する理論を応用し、自らの立場で必要とされる口腔保健活動を検討できる。

【学習方法・学習上の注意】
学術論文、参考資料を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。事前に提示された文献、参考資料をもとに基本的知識を整理したうえで授業に臨む必要がある。提示された学術論文、課題以外にも関連した論文を自主的に検索し、研究デザイン、結果の違い等を考察・整理することが望まれる。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	健康教育に関する文献をもとに基本的知識を確認する。	諏訪間
2-6	健康教育と健康行動	健康行動に関する文献をもとに基本的知識を整理する。	
7-11	行動変容と自己効力感	行動変容と自己効力感に関する文献をもとに基本的知識を整理する。	
12-16	文献抄読、口腔保健活動における援助等の検討	これまでの学習をもとに自らに求められる口腔保健活動を検討する。	

【成績評価の方法と基準】
口頭試問（50%）およびレポート（50%）で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
・Karen Glanz ら：健康行動学その理論、研究、実践の最新動向，メディカル・サイエンス・インターナショナル，5,390 円.
・日本健康教育士養成機構編：新しい健康教育，保健同人社，3,135 円.
・宮坂忠夫ら編著：最新保健学講座別巻 1　健康教育論，メヂカルフレンド社，3,850 円.
【生成 AI の利用について】
生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）を利用する場合は、アイデア出しや文献調査の補助として利用することは許可しますが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止します。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記してください 。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1310	2	火／5	2	講義・実習
260W2310		土／1		
授業科目名	地域歯科保健活動			
担当教員	濃野　要 教授			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
生活習慣病と歯科疾患の関係について疫学的な視点から整理する。また、ポピュレーションストラテジとハイリスクストラテジの違いを理解し、さらに、都道府県や市町村で実際に実施されている各ライフステージごとの地域歯科保健活動を評価しながら、あるべき姿について検討を加える。

【科目のねらい】
生活習慣病の発症および進行に対する口腔健康状態の関連について習得する。さらに、地域保健活動にどのように応用していくか明らか理解する。

【学習の到達目標】
以下の項目ができる。
・生活習慣病における口腔健康状態関連のリスク要因について理解する。
・生活習慣病予防や口腔疾患予防について、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチの考え方に沿い、公診連携、病診連携、住民参加も考慮に入れた実施計画を作成できる。

【学習方法・学習上の注意】
座学およびフィールド調査

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	特に必要ない	濃野
2-3	う蝕予防と地域歯科保健活動	事前に配布する資料に基づきう蝕予防方法について整理する	
4-5	歯周病予防と地域歯科保健活動	事前に配布する資料に基づき歯周病予防方法について整理する	
6	口腔健康状態と骨代謝	事前に配布する資料に基づき骨代謝と口腔関連要因について整理する	
7	口腔健康状態と栄養	事前に配布する資料に基づき栄養と口腔関連要因について整理する	
8	口腔健康状態と食育	事前に配布する資料に基づき食育と口腔関連要因について整理する	
9	口腔健康状態と生活習慣病	事前に配布する資料に基づき生活習慣病と口腔関連要因について整理する	
10	ポピュレーションストラテジとハイリスクストラテジ	事前に配布する資料に基づきポピュレーションストラテジとハイリスクストラテジについて整理する	

11	歯科保健計画	事前に配布する資料に基づき歯科保健計画について整理する	
12	公診連携	事前に配布する資料に基づき公診連携について整理する	
13	病診連携	事前に配布する資料に基づき病診連携について整理する	
14-15	住民参加型歯科保健活動	事前に配布する資料に基づき住民参加型歯科保健活動について整理する	
16	口頭試問およびレポートのフィードバック	今まで配付した資料の内容を確認する	

【成績評価の方法と基準】
口頭試問(50%)とレポート(50%)で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
関連文献
【生成 AI の利用について】
本科目では、課題によって生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用の可・不可が変わります。利用が許可された場合は、以下の点を遵守してください。
1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1311	1	月／5	2	講義・演習
260W2311		月／6		
授業科目名	口腔保健活動展開論			
担当教員	柴田　佐都子　准教授			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】

口腔保健活動を効果的・効率的に実践するために必要な組織管理の理論や技術について、組織論、管理過程論、リーダーシップ理論、意思決定、調整と交渉、リスクマネジメントおよびキャリア開発の視点から学習する。加えて、提示資料および文献を通して、口腔保健活動に関する個別の課題を検討する。

【科目のねらい】

オーラルヘルスニーズに対応した口腔保健活動を実践するために、歯科保健医療システムにおける口腔保健活動の問題点とその特性を理解する。そのうえで、関連する諸理論を活用して口腔保健活動の問題を批判的に分析し、自ら変革・創造していく能力および保健医療福祉に関わる専門職とともに解決していくための基礎的能力を習得する 。

【学習の到達目標】

・歯科保健医療におけるサービス管理の概要について説明することができる。
・歯科保健医療におけるサービス管理に関連する理論を説明することができる。
・歯科保健医療におけるサービス管理に関連する理論を応用し、口腔保健活動における個別の課題を分析することができる。

【学習方法・学習上の注意】

学術論文、参考資料を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。事前に提示された文献、参考資料をもとに事前に基本的知識を整理したうえで授業に出席する必要がある。提示された学術論文、課題以外にも関連した論文を自主的に検索し、研究デザイン、結果の違い等を考察・整理していくことが望まれる。

【授業実施形態について】

対面または Zoom 会議システムを用いたリアルタイム型オンライン授業を実施する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	テキスト②1 章をもとに基本的知識について確認する。	柴田
2-3	歯科保健医療におけるサービス管理の概要と基礎	テキスト①1 章、2 章をもとに基本的知識を整理する。	
4-7	歯科保健医療におけるサービス管理の要素とプロセス	テキスト①3 章をもとに基本的知識を整理する。	
8-9	口腔保健活動の実践と管理 組織の目標と運営、業務と労務管理 医療安全管理、記録と情報管理 人材育成と教育システム、チーム医療連携、 口腔保健活動の質評価	テキスト①4 章、6 章、7 章、8 章をもとに基本的知識を整理する。	
10-15	キャリア開発	テキスト①9 章をもとに基本的知識を整理する。	
16	口頭試問及びレポートのフィードバック	これまでの学習をもとに口腔保健活動における個別の課題を分析する。	

【成績評価の方法と基準】
口頭試問（40%）およびレポート（60%）で判定する。
非対面の受講者は非対面で試験を実施する。
【参考図書等】
①小池智子，松浦正子，中西睦子編集：看護サービス管理，医学書院，第 5 版，3,300 円.
②P・ハーシィ, K.H. ブランチャート, D・E・ジョンソン著，山本成二，山本あづさ訳：行動科学の展開 -人的資源の活用-，生産性出版，3,520 円
③スティーブン P. ロビンス著，高木晴夫訳：組織行動のマネジメント，ダイヤモンド社，3,080 円.
【生成 AI の利用について】
本科目では、レポート作成において文献調査の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。また、利用した場合には情報の正確性や適切性を必ず自身で検証し、最終的な成果物の責任は自身が負うこと。併せて、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1312	1	火／2	2	講義・演習
260W2312		火／6		
授業科目名	保健福祉計画演習			
担当教員	島田　久幸　教授			
講義・演習場所	口腔保健福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】

保健医療福祉分野における行政計画について、事例検討を通して計画間の関連やその背景を把握し、そこから浮かび上がる個別自治体の課題を抽出する。

【科目のねらい】

現在，地方自治体において，保健医療福祉の分野の各種計画が策定されている。保健医療関係では，医療計画，健康増進計画，感染症予防計画，母子保健計画など，また，福祉関係では，地域福祉(支援)計画，介護保険事業(支援)計画，老人福祉計画，障害者計画，障害福祉計画，子ども計画などである。

これらの計画における策定のガイドラインでは，計画間の調和や整合性を図ることの重要性が述べられてはいるものの，計画間の整合性に疑問を抱かざる得ない内容となっている例や，すべての計画を一つにまとめて計画間の調和を図ってはいるものの，本来，個別の計画策定が必要とされた主旨さえもが曖昧になっている例なども散見される状況にある。

この授業では，保健医療福祉の分野における各種計画が制度的に位置づけられた社会的背景や，それぞれの計画の持つ意味を確認したうえで，いくつかの自治体を抽出して公表されている各種計画などのデータを収集し，その内容および策定・実施・評価の各段階についての分析を行うとともに，人口構造，産業構造，疾病および生活習慣の特徴などその自治体が置かれている基礎的な条件を踏まえてそれらの自治体に固有な課題を抽出し，改善の方向性などについて検討を行っていく。

【学習の到達目標】

保健医療福祉分野における自治体の行政計画を比較分析し、そこから導き出される当該自治体の特徴と課題を論理的に説明する。

【学習方法・学習上の注意】

受講者は、ディスカッションにおいて論理整合性のある説明ができるよう、事前準備（データ収集と情報の整理など）を行うこと。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1-3	各種計画の確認と標本自治体の抽出	行政計画の根拠法令を確認。	島田
4-7	計画の収集と分析	詳細は授業で指示する。	
8-11	標本自治体の基礎的条件の調査・分析	詳細は授業で指示する。	
12-15	課題抽出，検討	前回までの復習。	
16	まとめと口頭試問	これまでの復習。	

【成績評価の方法と基準】

口頭試問 50%，レポート 50%で判定する。

【使用テキスト・参考図書等】

必要な資料の収集方法等については，授業の中で指示する。

【生成 AI の利用について】

本科目では、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1313	2	月／2	2	講義・演習
260W2313		水／6		
授業科目名	口腔保健医療福祉援助論			
担当教員	松本　明日香　助教			
講義・演習場所	口腔保健福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
口腔保健医療とそれに関連する福祉を横断的に理解できるように学習するとともに、文献や資料を通して口腔保健医療福祉に関する個別の課題について検討する。

【科目のねらい】
スペシャルニーズのある患者の口腔保健医療の実際について理解するとともに、患者を取り巻く福祉制度に関する知識を習得する。

【学習の到達目標】
・スペシャルニーズ歯科について説明することができる。
・障害福祉制度について説明することができる。
・障害者の口腔に関する保健・医療・福祉の連携について説明することができる。

【学習方法・学習上の注意】
学術論文、参考資料を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。提示された学術論文、課題以外にも、関連した論文を自主的に検索し、研究デザイン、結果の違い等を考察・整理していくことが望まれる。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	詳細は授業で指示する	松本
2-5	スペシャルニーズ歯科について	資料に基づいて基本的知識を整理する	
6-9	障害福祉制度について	資料に基づいて基本的知識を整理する	
10-15	障害者の口腔に関する保健・医療・福祉の連携について	これまでの学習をもとに、保健・医療・福祉の連携について検討する	
16	口頭試問およびレポートのフィードバック	前回までの復習	

【成績評価の方法と基準】
口頭試問 50%，レポート 50%で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
必要な資料の収集方法等については，授業の中で指示する。
【生成 AI の利用について】
本科目では、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1314	2	木／4	2	講義・演習
260W2314		土／2		
授業科目名	口腔保健医療福祉制度			
担当教員	大内章嗣　教授			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
行政機関・各種団体からの統計調査や報告書を題材に、保健医療福祉制度の現状・課題について学習するとともに、各保健医療福祉施策における口腔保健医療福祉活動の位置づけおよび今後の在り方について検討を行う。

【科目のねらい】
厚生労働省等の行政機関・各種団体が公表する最新の統計調査や報告書に基づき、保健医療福祉制度の現状・課題について学習し、これらの施策における口腔保健医療福祉活動の現状に関する認識を深め、、今後の在り方について自らの意見を整理できるようにする。。

【学習の到達目標】
・我が国の医療保障制度やこれに対する国民ニーズの現状を説明する。
・我が国の医療保険制度の現状と現在行われている制度改革の方向性を説明する。
・地域における疾病予防および介護予防の取組の現状を説明する。
・介護保険および障害者福祉制度の現状を説明する。
・保健医療福祉施策における口腔保健医療福祉活動の現状を説明し、今後の在り方について自らの考えを述べる。

【学習方法・学習上の注意】
文献データベースや e-gov、e-stat 等を使用するので、事前に使用方法に慣れておくこと。

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1-2	医療保障制度①（医療に対する国民ニーズと疾病動向）	直近の患者調査の結果の概要整理	大内
3-4	医療保障制度②（医療提供体制・医療従事者の動向）	直近の医療施設（静態）調査の結果の概要整理	
5-6	医療保障制度③（医療保険制度（公費負担医療を含む）の概要と今後の課題）	直近の診療報酬改定の概要整理	
7-8	地域保健制度の概要と生活習慣病・介護予防との関わり	特定健診・特定保健指導および介護予防事業の現状を整理	
9-10	介護保険制度と障害者福祉①（サービス提供体制とサービス受給者の実態）	介護保険・障害者福祉サービスの内容の要点整理	
11-12	介護保険制度と障害者福祉②（ケアマネジメントと関連サービスとの連携）	介護保険・障害者福祉における市町村事業の要点整理	
13	保健医療福祉施策と口腔の関わりの最新動向	国・地方自治体の歯科口腔保健活動の内容の要点整理	
14-16	まとめ：口腔保健医療福祉の在り方（政策提案演習）	今後の在り方についてレポート作成	

【成績評価の方法と基準】
各課題毎に課すレポート（70%）およびこれに対する口頭試問（30%）で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
厚生労働白書（厚生労働省監修）
国民衛生の動向、国民福祉の動向（厚生統計協会）
その他、患者調査等の統計調査報告や審議会・検討会の報告書・資料を必要に応じて紹介する。
【生成 AI の利用について】
　アイデア出しや文献調査の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。また、引用する文献・データは必ず原典を確認し、出典を明記すること 。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1315	1	金／5※	2	実習
260W2315		金／6※		
授業科目名	医療福祉援助技術論			
コーディネーター	米澤　大輔　准教授			
担当教員	米澤　大輔　准教授			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻大学院演習室（C 棟 7 階）および学外施設等			

【科目の概要】
要介護高齢者および施設入所障害児（者）を対象とした口腔保健医療福祉活動の実際について、学外施設における実習を行い、そこで行われているアセスメント・援助技法について評価・検討を行う。

【科目のねらい】
高齢者および障害児（者）を取り巻く社会情勢、求められる状況について理解し、実際にそこで働く専門職の役割と連携について理解する。また、福祉援助活動の展開過程を通して、高齢者および障害者に対する支援手法としてのアセスメント・援助技法の実際について理解する。

【学習の到達目標】
・要介護高齢者および施設入所障害児（者）への福祉相談における援助過程について説明できる。
・福祉相談における組織・専門職の役割と連携の実際について概説できる。

【学習方法・学習上の注意】
実際に実習先での実習を行うため、準備学習をしっかりと行ってから授業に臨むこと。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	学外施設実習①ガイダンス	事前に配布する実習先施設候補について学習する	米澤
2-4	学外施設実習①実習計画書策定	実習先施設について調査	米澤
5-7	学外施設実習①（デイサービスおよび介護保険施設）	実習計画書による実習内容の確認	米澤
8	学外施設実習②ガイダンス	事前に配布する実習先施設候補について学習する	米澤
9-11	学外施設実習②実習計画書策定	実習先施設について調査	米澤
12-15	学外施設実習②（障害児（者）福祉施設）	実習計画書による実習内容の確認	米澤
16	学外施設実習まとめ・口頭試問	第 15 回までの講義内容の復習	米澤

【成績評価の方法と基準】
実習計画書および実習後レポート（100%）で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
・神奈川県介護支援専門員協会 編：オリジナル様式から考えるケアマネジメント実践マニュアル 介護予防編，中央法規出版(2,640 円)
・平野 浩彦　著：口腔機能の向上を楽しく続ける口腔ケアのアクティビティ，東京都高齢者研究福祉振興財団（1,980 円）
・地域包括支援センター実務必携　高橋紘士編　オーム社(3,080 円)

【生成 AI の利用について】
本科目では、生成 AI(ChatGPT、Gemini 等)の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。
1. レポート等での利用は情報収集にとどめ、本文の作成には使用しないこと。論文検索等で使用した場合は、どの部分で、どのような目的(質問のプロンプト等)で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用(許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など)が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

※学外施設および学生との調整等により異なる。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1316	1	火／5	2	講義・演習
260W2316		水／6		
授業科目名	口腔医療福祉政策学			
担当教員	黒川　孝一　准教授			
講義・演習場所	口腔生命福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】
医療政策と福祉政策の連携構築に必要な事項について行政・従事者・利用者等様々な視点からの講義・演習を行うとともに、「食べる」という口腔領域における基本的事項について各種制度、他領域での研究を探索し演習を行う。

【科目のねらい】
口腔保健医療福祉制度の概要と課題を理解する。

【学習の到達目標】
口腔に関する保健制度について説明することができる。
口腔に関する医療制度について説明することができる。
口腔に関する福祉制度について説明することができる。
口腔保健医療福祉制度の政策的課題の概要を説明することができる。

【学習方法・学習上の注意】
学術論文、参考資料を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。事前に提示された文献、参考資料をもとに事前に基本的知識を整理したうえで授業に望む必要がある。提示された学術論文、課題以外にも、関連した論文を自主的に検索し、研究デザイン、結果の違い等を考察・整理していくことが望まれる。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	講義　ガイダンス	食と口腔の要点整理	黒川
2	講義　口腔保健医療福祉制度概論	口腔保健医療福祉制度の要点整理	
3-6	演習　保健医療制度論	医療制度の要点整理	
7-10	演習　福祉制度論	福祉制度の要点整理	
11-14	演習　保健医療福祉の政策課題検討　まとめ	与えられた事例の要点整理	
15	まとめと口頭試問	制度と現状の整理	
16	講義　評価のフィードバック	試問内容の再検討	

【成績評価の方法と基準】
口頭試問（50%）およびレポート（50%）で判定する。
【使用テキスト・参考図書等】
法令および通知集を活用する。
【生成 AI の利用について】
本科目では、生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下

の点を遵守してください。
1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

開講番号	学期	曜／限	単位	授業形態
260W1317	2	木／5	2	講義・演習・実習
260W2317		土／3		
授業科目名	地域福祉活動			
担当教員	中村　健　准教授			
講義・演習場所	口腔保健福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7 階）ほか			

【科目の概要】

地域社会の推進を担う地域福祉活動の活動主体・目的・内容・対象・課題などの実際と、地域福祉活動におけるソーシャルワークを学ぶ。

【科目のねらい】

地域福祉の推進は、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指す地域共生社会の理念の基に取り組みが進められている。地域福祉の推進とその実践であるコミュニティ・ソーシャルワーク、および地域で行われている地域福祉活動を理解する。

【学習の到達目標】

・地域福祉の概念、地域共生社会や包括的支援体制について説明することができる。
・コミュニティ・ソーシャルワークについて具体例を挙げて説明することができる。
・地域福祉活動の実際を説明することができる。

【学習方法・学習上の注意】

地域福祉活動の実際をフィールドワークを取り入れながら学ぶ。

地域にある社会資源や、地域福祉の推進を目的としたコミュニティ・ソーシャルワークに関する事前学習を行い、実施計画を作成する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンス	詳細は授業で指示する	中村
2-5	地域福祉の概念、地域共生社会	配布資料に関する事前の情報収集と整理	
6-8	地域福祉の推進とコミュニティ・ソーシャルワーク	配布資料に関する事前の情報収集と整理	
9-10	地域福祉活動、社会資源	配布資料に関する事前の情報収集と整理	
11-13	フィールドワーク実施計画策定	訪問先に関する事前学習	
14-15	フィールドワーク	訪問先に関する事前学習	
16	振り返りとフィードバック	前回までの復習	

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%，フィールドワーク参加態度 20%

【使用テキスト・参考図書等】

必要な資料の収集方法等については，授業の中で指示する。

【生成 AI の利用について】

本科目では、生成 AI(ChatGPT、Gemini 等)の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。

1. レポート等での利用は情報収集にとどめ、本文の作成には使用しないこと。論文検索等で使用した場合は、どの部分で、どのような目的(質問のプロンプト等)で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用(許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など)が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

博 士 後 期 課 程

授 業 科 目 一 覧
時　間　割

授 業 科 目 一 覧

口腔保健福祉学プログラム（博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	単位数		開講学期
		必修	選択	
専攻共通科目	リサーチ・メソッズ・アドバンスト	2		1学期
プログラム共通科目（2単位以上必修）	アカデミックリーディング		1	1学期
	実践統計学ベーシックコース		1	2学期
プログラム専門科目群	口腔保健管理学特論		2	1学期
	摂食嚥下機能評価支援学特論		2	2学期
	口腔保健福祉援助学特論		2	1学期
	地域口腔保健福祉学特論		2	2学期
	アカデミックライティング		2	1学期
	アカデミックリーディングⅡ		1	2学期
研究指導	特別研究（口腔保健福祉）		4	通年
	特別研究（学術）		4	通年

2026年度　大学院医歯保健学研究科　　口腔保健福祉学プログラム　（　博士後期 課程　）

曜日	学期	Ⅰ限(8:45～10:15)	Ⅱ限(10:30～12:00)	Ⅲ限(13:00～14:30)	Ⅳ限(14:45～16:15)	Ⅴ限(16:30～18:00)	Ⅵ限(18:10～19:40)	Ⅶ限(19:45～21:15)
月	第1期							
	第2期			実践統計学ベーシックコース （小川、他）	実践統計学ベーシックコース （小川、他）		地域口腔保健福祉学特論 （黒川、他）	
火	第1期		リサーチ・メソッズ アドバンスト （野中、他）					
	第2期					摂食嚥下機能評価支援学特論 （大内、他）	摂食嚥下機能評価支援学特論 （大内、他）	
水	第1期		口腔保健管理学特論 （濃野、他）				口腔保健管理学特論 （濃野、他）	
	第2期					アカデミックリーディングⅡ （ステガロユ）	アカデミックリーディングⅡ （ステガロユ）	
木	第1期					口腔保健福祉援助学特論 （島田、他）	口腔保健福祉援助学特論 （島田、他）	
	第2期		地域口腔保健福祉学特論 （黒川、他）					
金	第1期	アカデミックリーディング （プレゲンズ）	アカデミックライティング （プレゲンズ）				リサーチ・メソッズ アドバンスト （野中、他）	
	第2期							
土	第1期							
	第2期							

専 攻 共 通 科 目

開講番号	260W3002	授業科目名	リサーチ・メソッズ・アドバンスト		
コーディネーター		野中　由香里（教授）			
担当教員		野中　由香莉（教授） 大内　章嗣（教授） 小川　祐司（教授） 山村　健介（教授） 濃野　　要（教授） 島田　久幸（教授） 未定			
開講学期		第１学期	曜／限	火／２、金／６	単位	２
講義・演習場所		口腔生命福祉学専攻大学院演習室（C 棟 7F）ほか				

【科目の概要】

口腔保健福祉分野における学際的研究を実践していくための基盤となる口腔保健医療福祉の現状と課題、医療倫理、感染予防等について理解するとともに、同分野における主要なテーマについての国内外の論文等の批判的論考を通じ、口腔保健医療福祉分野における研究を遂行するにあたって必要となる基本的知識および応用力を体系的に修得する。

【科目のねらい】

口腔保健福祉学分野における現状と課題について総括的に理解するとともに、同分野における研究を実施する上で、不可欠な医療倫理、感染予防、全身管理について基本的な知識・技術を習得する。これに加え、口腔保健福祉分野における主要なテーマに関する最新の研究論文等の論考を通じ、その課題と研究手法に関する知識・技術を習得する。

【学習の到達目標】

- 口腔保健医療福祉を取り巻く国内外の現状および動向と課題を理解する。
- 医療倫理の概念、原則、関係法規を理解し、口腔保健医療福祉に関わる主要な倫理的問題について適切な対処プロセスを提示できる。
- 感染予防および救急蘇生措置を含む全身管理に関する理論と実際を習得する。
- 摂食嚥下に関わる解剖・生理および摂食嚥下の病因・病態を理解する。
- 基本的な摂食嚥下機能評価法の理論と実際を習得する。
- 障害（児）者の口腔保健管理における理論と実際を理解する。
- 障害（児）者の口腔保健管理に関する現在の研究課題と用いられている研究手法を理解する。
- 口腔疾患の病因および口腔疾患と全身疾患の関連について理解する。
- 口腔疾患のリスクファクター分析と予防効果の評価法について理解する。
- ソーシャルワークにおける介入方策とその理論的背景を理解する。
- 地域における口腔保健医療福祉に関わる関係者の役割と連携について理解する。

【学習方法・学習上の注意】

学術論文、参考資料を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。事前に提示された文献、参考資料をもとに事前に基本的知識を整理したうえで授業に望む必要がある。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	我が国の保健医療福祉制度の現状と課題	厚生労働白書第2部7～9章の要点整理	大内
2	我が国の保健医療福祉制度における口腔保健の位置づけと今後の展望	歯科口腔保健法の基本的事項の要点整理	大内
3	国際口腔保健施策および研究の現状と課題	Strategies for oral disease prevention and health promotion (WHO)の要点整理	小川
4	生命医療倫理における今日的課題とその対応①	リスボン宣言の要点整理	大内
5	生命医療倫理における今日的課題とその対応②	詳細は授業時に指示する	大内
6	感染予防対策における理論と実際	歯科における標準予防策の要点整理	野中
7	全身管理における理論と救急救命措置	BLS ガイドラインの要点整理	野中
8	摂食嚥下障害学の基礎(解剖・生理・病因と病態について)	摂食嚥下に関わる器官の解剖・制御機構の要点整理	山村
9	摂食嚥下機能評価法演習	詳細は授業時に指示する	山村
10	障害(児)者の口腔保健管理の理論と実際①	障害児に対する歯科治療の留意点の要点整理	未定
11	障害(児)者の口腔保健管理の理論と実際②	詳細は授業時に指示する	未定
12	口腔疾患の病因および全身疾患との関連について	口腔と全身の健康の関連の要点整理	濃野
13	口腔疾患の予防管理法(リスクファクター分析と予防効果の評価法について)	詳細は授業時に指示する	濃野
14	ソーシャルワークにおける理論と実際①	ソーシャルワークで用いられる各種アプローチの要点整理	島田
15	ソーシャルワークにおける理論と実際②	詳細は授業時に指示する	島田
16	ふり返りと総括レポート作成	これまでの学習整理	野中

【成績評価の方法と基準】
各担当教員が課す課題レポートまたは口頭試問を総合して判定する（100%）。
【使用テキスト・参考図書等】
各担当教員が学術文献等を適宜指示・配布する。
【生成 AI の利用について】
アイデア出しや文献調査の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。また、引用する文献・データは必ず原典を確認し、出典を明記すること。

プログラム共通科目群

開講番号	260W3101	授業科目名	アカデミックリーディング				
担当教員	ジャン・プレゲンズ非常勤講師(ルーテル学院大学教授) Prof. John E. Plagens (Japan Lutheran College)						
開講学期	1	曜／限	金／1	単位	1	授業形態	Zoomを用いたリアルタイム型オンライン授業
講義・演習場所	Zoom						

【科目の概要】

Students will be introduced to the reading skills in the textbook. These will include scanning, skimming, context clues, and inferences.

（研究を行う上で不可欠である英論文の読解に習熟するため、スキャニング、スキミング等の英文を迅速かつ正確に読み取る技術を、テキストを題材としたコースワークにより修得する。）

【科目のねらい】

Students will learn to find information from reading passages and become familiar with the rhetoric of English writing.

（文節から文意を読み取る方法を修得し、英文の修辞法に習熟する。）

【学習の到達目標】

Students will learn about the rhetoric of English writing and identify topics and supporting ideas. will work with authentic material.

（英文で用いられる修辞法について理解するとともに、英論文から題目やそれを支持する考え方と読み取ることができる。）

【学習方法・学習上の注意】

Skills will be introduced in class, to be reviewed by students in homework assignments. The limited class time requires students to be present each session. There will be a take-home test with a study sheet at the end of the first half.

（読解スキルの方法を授業時間に提示するので、各学生はそれに従って課題を自主学習することにより習熟する。各回の授業へ出席する必要がある。学期前半の最後に提出式筆記試験が行われる。）

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
4/10	Introduction, vocabulary study.　Part 2, Unit 1. （イントロダクション、語彙学習）	Details will be given in class.	John Plagens
4/17	Scanning.　Part 3, Unit 1. （スキャニング）	Details will be given in class.	
4/24	Skimming.　Part 3, Unit 6. （スキミング）	Details will be given in class.	
5/ 1	Meaning from Context. Part 2, Unit 3. （文脈から意味を読み取る）	Details will be given in class.	
5/15	Making Inferences.　Part 3, Unit 2 （推論）	Details will be given in class.	
5/22	Topics of Paragraphs. （トピックスリーディング）	Text pp. 147-155	
5/29	Main Ideas of Paragraphs. （本旨読解）	Text pp. 156-	
6/5	Free study period （自由課題学習）	Details will be given in class.	

【成績評価の方法と基準】

Attendance, homework assignments, and a take-home test.

The homework will comprise 70% of the grade; late homework will receive ½.　The take-home test will be 30% of the final grade.

（出席、課題提出、持ち帰り試験により評価する。課題提出が 70%：提出の遅れは 1/2。持ち帰り試験が最終成績の 30%）

【使用テキスト・参考図書等】

More Reading Power (3nd Edition, Longman) by Beatrice S. Mikulecky and Linda Jeffries.

【生成 AI の利用について】

本科目で生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）を利用する場合は、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

開講番号	260W3102	**授業科目名**	実践統計学ベーシックコース				
コーディネーター		小川祐司（予防歯科学分野　教授）					
担当教員		小川祐司（教授） 濃野　要（教授） 竹原祥子（准教授） カウン　ミヤット　トイン（助教） カラエパニャウオン　ラクサナン(講師/マヒドン大学)					
開講学期	2	**曜／限**	月／３・４	**単位**	1	授業形態	講義・演習 ﾋﾞﾃﾞｵﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ
講義・演習場所	インテリジェンス・アクティブラーニングクラスルーム（iALC1）						

【科目の概要】

研究を成功に導くための鍵はプロトコールの内容（研究デザイン）に対する適切な統計手法を理解することにある。本コースでは実際の研究における事例を用いて研究デザインの構築からデータ解析で用いられている統計学的手法の理論を習得し、研究者としての心構えを身に付ける。

【科目のねらい】

研究における主要な項目(目的・デザイン、方法・適格基準、サンプル数の設定・割付、エンドポイントとその評価、統計解析など)をより深遠に理解するための統計的考え方の基礎について説明する。

【学習の到達目標】

・ 研究の計画、実施、解析が自らできる。

【学習方法・学習上の注意】

学術論文を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。講義資料は適宜指示する。特別講義は Zoom を用いたリアルタイム型オンライン講義とする。ビデオライブラリー受講者は、各授業後に配信されるビデオを指定期日までに視聴する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	10/13・3限【講義】概論・研究の必要性	講義資料は適宜指示	小川
2	10/19・3限【講義】研究デザイン（総論） （RQの構造化・研究デザインの型［記述研究・横断研究・コホート研究・ケースコントロール研究・介入研究］）	講義資料は適宜指示	小川
3	10/19・4限【演習】RQの構造化（グループワーク）	資料は適宜指示	竹原 トイン
4	10/26・3限【講義】研究デザイン（各論） （測定のデザイン［客観的/主観的概念の測定・信頼性/妥当性・変数とは］）	講義資料は適宜指示	小川
5	10/26・4限【演習】研究プロトコール構築 I（グループワーク）	資料は適宜指示	竹原 トイン
6	11/ 9・3限【講義】構造化アブストラクトとプレゼンテーションの基本	講義資料は適宜指示	小川
7	11/ 9・4 限【演習】研究プロトコール構築 II（グループワーク）	資料は適宜指示	竹原 トイン
8	11/16・3限【講義】基本統計 I （標準偏差・標準誤差・正規分布・信頼区間・仮説検定・P値）	講義資料は適宜指示	濃野 トイン
9	11/16・4限【演習】基本統計 I	資料は適宜指示	竹原 トイン
10	11/30・3限【講義】基本統計Ⅱ （単変量解析・多重検定・多変量解析・サンプルサイズとパワー）	講義資料は適宜指示	濃野 トイン
11	11/30・4限【演習】基本統計Ⅱ	資料は適宜指示	竹原 トイン
12	12/ 7・3限【講義】ケーススタディ・クリティカルシンキング（論文抄読・批判的吟味）	講義資料は適宜指示	竹原
13	12/ 7・4限【講義・演習】文献検索・エビデンステーブル作成（Pubmedの活用）、システマティックレビュー	講義資料は適宜指示	竹原 トイン
14	12/14・3 限【特別講義】Principle Investigator (PI)としての心構え	講義資料は適宜指示	ﾗｸｻﾅﾝ
15	12/14・4 限【講義】研究倫理審査-ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則-	講義資料は適宜指示	小川
16	12/21・3、4限【演習】プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	小川 竹原 トイン

【成績評価の方法と基準】

演習内容（80%）態度評価（20%）による。すべての授業を受講しないと成績評価しない。

ビデオライブラリー受講者は、各授業後に提示された課題レポートの提出をすべて完了しないと成績評価しない。

【使用テキスト・参考図書等】

学術文献および参考図書等を適宜指示する。

【生成AIの利用について】

アイデア出しや文献調査の補助として利用することは許可するが、プレゼンテーション・課題レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。また、引用する文献・データは必ず原典を確認し、出典を明記すること。

プログラム専門科目群

開講番号	260W3201	授業科目名	口腔保健管理学特論				
コーディネーター		濃野　要（教授）					
担当教員		濃野　要（教授） 大内　章嗣（教授） ステガロユ・ロクサーナ（准教授） 野中　由香莉（教授） 柴田　佐都子（准教授） 吉羽　永子（教授）					
開講学期		1	曜／限	水/2、水/6	単位	2	授業形態	講義・演習
講義・演習場所		口腔生命福祉学専攻大学院演習室（C 棟 7F）ほか					

【科目の概要】

口腔疾患の予防管理に関する最近の知見をふまえた知識・技術を教授するとともに、最新の研究論文等を題材に検討を行うことにより口腔保健管理分野における研究デザイン、評価・解析技法等について理解する。

【科目のねらい】

健常者および障害者、要介護高齢者等のそれぞれの特性に応じたう蝕、歯周病などの口腔疾患の予防・治療・リハビリテーションに関する最新の理論と実践を習得する。併せて、口腔保健管理のための介入法、評価法に関する研究の動向およびそこで用いられている研究デザイン、評価・解析技法について理解する。

【学習の到達目標】

- う蝕、歯周病を中心とした口腔疾患の予防管理法とその学術的背景を理解できる。
- 高齢者・要介護者を対象とした口腔保健管理介入法に関する研究の動向とそこで用いられる研究デザイン、評価・解析法を理解できる。
- 歯周疾患の病因および全身疾患との関連、再生療法について最新の研究成果を踏まえ理解できる。
- 歯周疾患のリスク分析とそれに応じた予防管理法に関する研究の動向とそこで用いられる研究デザイン、評価・解析法を理解できる。
- 口腔・咀嚼機能のリハビリテーションとしての歯科補綴の理論と実際について理解できる。
- インプラント等の歯科補綴物の維持管理のための口腔保健管理に関する研究の動向とそこで用いられる研究デザイン、評価・解析法を理解できる。
- 小児期の特性に応じた口腔疾患の予防および治療法とその学術的背景を理解できる。
- 小児の口腔疾患予防と口腔機能育成指導に関する研究の動向とそこで用いられる研究デザイン、評価・解析法を理解できる。
- 栄養管理を含めた口腔保健指導の実際とその学術的背景を理解できる。

【学習方法・学習上の注意】

学術論文、参考資料を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。事前に提示された文献、参考資料をもとに事前に基本的知識を整理したうえで授業に望む必要がある。提示された学術論文、課題以外にも、関連した論文を自主的に検索し、研究デザイン、結果の違い等を考察・整理していくことが望まれる。

【授業実施形態について】

対面授業およびZoom会議システムを用いたリアルタイム型オンライン授業を実施する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンスおよび口腔疾患の分類・病因・病態と治療法	詳細は授業で指示する。	濃野
2	う蝕のリスクファクターおよび予防管理法に関する研究の動向	配布する資料を通読し、要点を整理する。	吉羽
3	歯周疾患のリスクファクターと予防管理法に関する研究の動向	配布する資料を通読し、要点を整理する。	濃野
4	高齢者・要介護者の口腔の実態と問題点	配布する資料を通読し、要点を整理する。	吉羽
5	高齢者・要介護者に対する口腔保健管理介入法とその評価法	配布する資料を通読し、要点を整理する。	吉羽
6	歯周疾患の特性と免疫病因論	配布する資料を通読し、要点を整理する。	濃野
7	歯周疾患の予防・治療に関する現状と課題	配布する資料を通読し、要点を整理する。	濃野
8	歯周疾患の予防効果評価法に関する動向と課題	配布する資料を通読し、要点を整理する。	濃野
9	歯周疾患と全身疾患の関連に関する研究の動向	配布する資料を通読し、要点を整理する。	濃野
10	口腔機能低下症・オーラルフレイル対策の現状と展望	配布する資料を通読し、要点を整理する。	大内
11	歯科補綴治療の実際とその理論的背景	配布する資料を通読し、要点を整理する。	ﾛｸｻｰﾅ

12	歯科補綴物維持管理に関する研究の動向と課題	配布する資料を通読し、要点を整理する。	ﾛｸｻｰﾅ
13	小児期における口腔疾患の特性と予防・治療法（その理論と実際）	配布する資料を通読し、要点を整理する。	野中
14	小児口腔保健管理に関する研究の動向と課題	配布する資料を通読し、要点を整理する。	野中
15	口腔疾患と栄養の関係および保健指導の実際	配布する資料を通読し、要点を整理する。	柴田
16	ふり返りと総括レポート作成	これまでの学習内容を自身で総括する。	濃野

【成績評価の方法と基準】
各担当教員が課す課題レポートまたは口頭試問を総合して判定する（100%）。

【試験実施形態】
口頭試問は非対面で実施する。

【使用テキスト・参考図書等】
各担当教員が学術文献等を適宜指示・配布する。

【生成 AI の利用について】
本科目では、課題提出者によって生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用の可・不可が変わります。利用が許可された場合は、以下の点を遵守してください。
1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

開講番号	260W3202	授業科目名	摂食嚥下機能評価支援学特論				
コーディネーター		大内章嗣（教授）					
担当教員		大内章嗣（教授） 未定 井上　誠（教授） 山村健介（教授） 野中由香莉（教授） 大湊　麗（新潟医療福祉大学 講師）					
開講学期		２	曜／限	火／５､火／６	単位	２	授業形態	講義・演習
講義・演習場所		口腔生命福祉学専攻セミナー室（C 棟 7F）ほか					

【科目の概要】

摂食嚥下機能障害者の評価法、指導訓練法、リスク管理およびチームアプローチの理論と実際について最新の知見をふまえながら学習する。加えて、摂食嚥下障害者に対する支援法の開発および評価手法に関する研究デザイン、評価・解析技法等について理解する。

【科目のねらい】

障害者、要介護高齢者に多く認められる摂食嚥下障害の評価・診断・治療およびリハビリテーションの背景となる生理学等を含めた理論と実際について学習するとともに、頭頸部領域の先天性疾患、悪性腫瘍、障害児などの原因・対象に応じた口腔保健管理・支援方法に関する研究の動向および研究デザイン、評価・解析技法について理解する。

【学習の到達目標】

- 摂食嚥下機能障害の評価・診断・治療およびリハビリテーションの実際とその背景となる理論について説明する。
- 摂食嚥下機能障害の評価手法や摂食機能訓練法に関する研究の動向とそこで用いられる研究デザイン、評価・解析法を説明する。
- 頭頸部領域の先天性疾患や悪性腫瘍により生じた摂食嚥下および言語機能の障害に対する診断・治療・リハビリテーションおよびリスク管理の実際とその背景となる理論について説明する。
- 頭頸部領域の先天性疾患患者等に対する口腔保健管理・支援法に関する研究の動向とそこで用いられる研究デザイン、評価・解析法を説明する。
- 摂食嚥下の神経制御機構および加齢変化について理解し、摂食嚥下機能に関する生理学的研究の動向とそこで用いられる研究デザイン、評価・解析法を説明する。
- 摂食嚥下機能障害を有する小児に対する評価・診断・治療およびリハビリテーションの理論と実際について説明する。
- 摂食嚥下機能に障害を有する小児に対する心理的・社会的支援を含めた口腔保健管理・支援法に関する研究の課題と方法について説明する。
- 言語聴覚士が行う言語・摂食嚥下障害患者に対する治療・リハビリテーションの実際と背景とな

る理論について説明する。

・ 言語聴覚士からみたチームアプローチの現状と課題について説明する。

【学習方法・学習上の注意】

学術論文、参考資料を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。事前に提示された文献、参考資料をもとに事前に基本的知識を整理したうえで授業に臨む必要がある。提示された学術論文、課題以外にも、関連した論文を自主的に検索し、研究デザイン、結果の違い等を考察・整理していくことが望まれる。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	摂食嚥下の神経制御機構と加齢変化	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	山村
2	摂食嚥下に関する生理学的研究の動向	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	山村
3	摂食嚥下障害の病態	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	井上
4	摂食嚥下障害の評価・診断法とリハビリテーション①	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	井上
5	摂食嚥下障害の評価・診断法とリハビリテーション②	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	井上
6	摂食嚥下障害者に対する総合的アプローチの現状と課題	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	井上
7	摂食嚥下リハビリテーションに関する研究の動向	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	井上
8	頭頸部領域の先天性疾患患者に対する診断・治療の実際とその理論背景	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	未定
9	頭頸部領域の先天性疾患患者に対する口腔保健管理に関する研究の動向	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	未定
10	頭頸部領域の悪性腫瘍患者に対する診断・治療の実際とその理論背景	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	未定
11	頭頸部領域の悪性腫瘍患者に対する口腔保健管理に関する研究の動向	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	未定
12	摂食嚥下障害児の病態と診断・治療・リハビリテーションの実際	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	野中
13	摂食嚥下障害児への口腔保健管理・支援法に関する現状と課題	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	野中

14	摂食嚥下、言語障害者に対する言語聴覚士の関わりとその理論①	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	大湊
15	摂食嚥下、言語障害者に対する言語聴覚士の関わりとその理論②	事前に配布する資料の内容を学習しておくこと。	大湊

【成績評価の方法と基準】

各担当教員が課す課題レポート、筆記試験または口頭試問を総合して判定する（100%）。

【使用テキスト・参考図書等】

各担当教員が学術文献等を適宜指示・配布する。

【生成 AI の利用について】

アイデア出しや文献調査の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。また、引用する文献・データは必ず原典を確認し、出典を明記すること 。

開講番号	260W3203	授業科目名	口腔保健福祉援助学特論				
コーディネーター		島田　久幸　教授					
担当教員		島田　久幸　教授 大内　章嗣　教授 柴田佐都子　准教授 米澤　大輔　准教授 松本明日香　助教					
開講学期		1	曜／限	木／５、木／６	単位	2	授業形態	講義・演習
講義・演習場所		口腔保健福祉学専攻　大学院演習室（C 棟 7F）					

【科目の概要】

口腔や摂食嚥下等に問題を抱える要介護者、障害者、有病者等に対する保健医療福祉を通じた総合的な援助（口腔保健福祉援助）を展開していく観点から、こうした対象者の症例分析等を通じて現状と課題を明らかにするとともに、対象者のニーズ把握、効果的援助方法の開発およびその評価法等に関する研究デザイン、評価・解析技法等について検討、理解する。

【科目のねらい】

摂食嚥下障害を有する要介護者、障害者等が抱える課題を幅広い視点から理解するとともに、こうした対象者への口腔保健福祉援助の現状と今後の在り方について検討する。また、関係論文の論考を通じて、こうした対象者のニーズ把握や、援助方法の開発に関する研究手法について理解を深める。

【学習の到達目標】

- 要介護者・障害者等に対する口腔保健福祉援助を行う際の理論と実践について理解する。
- 口腔保健福祉援助を行う際の対象者のニーズや効果を質的研究により把握する方法を理解する。
- 障害（児）者の置かれている環境とその背景、課題および障害（児）者を支援する公的・民間セクターの役割と歯科保健医療関係者の関わりの現状について理解する。
- 障害（児）者への効果的な援助の在り方に関する研究デザイン、評価・解析法を理解する。
- 摂食嚥下障害を有する患者等に対する歯科衛生士の業務の実際とチームアプローチについて理解する。
- 摂食嚥下障害患者等の口腔機能および生活の質と口腔ケアの関連に関する研究デザイン、評価・解析法を理解する。
- 在宅要介護者等に対する看護師の業務の実際と包括的ケアとしてのチームアプローチについて理解する。
- 口腔ケア、摂食支援における看護師の役割に関する研究の現状と課題について理解する。
- 地域連携ケア体制の概念とその取組の実際を理解し、その背景となる研究成果の現状と課題を理解する。

【学習方法・学習上の注意】

学術論文、参考資料を用いての講義と演習を組み合わせた形式で行う。事前に提示された文献、参考資料をもとに事前に基本的知識を整理したうえで授業に望む必要がある。提示された学術論文、課題以外にも、関連した論文を自主的に検索し、研究デザイン、結果の違い等を考察・整理していくことが望まれる。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	口腔保健福祉援助の現状と課題①	事前配布資料に関する情報収集と整理	島田
2	口腔保健福祉援助の現状と課題②	前回の復習	島田
3	医療ソーシャルワークの理論と実践①	事前配布資料に関する情報収集と整理	米澤
4	医療ソーシャルワークの理論と実践②	前回の復習	米澤
5	質的調査研究法と口腔保健福祉援助での展開	事前配布資料に関する情報収集と整理	米澤
6	障害(児)者を取り巻く現状と課題①	事前配布資料に関する情報収集と整理	島田
7	障害(児)者を取り巻く現状と課題②	前回の復習	島田
8	障害(児)者支援における公的・民間セクターの役割と課題	事前配布資料に関する情報収集と整理	島田
9	障害(児)者支援における歯科保健医療関係者の役割と連携の現状	事前配布資料に関する情報収集と整理	松本
10	障害(児)者の自立支援のための課題と今後の対応	事前配布資料に関する情報収集と整理	島田
11	摂食嚥下障害者に対するチームアプローチおける歯科衛生士の役割	事前配布資料に関する情報収集と整理	柴田
12	口腔衛生管理の実際とその評価	事前配布資料に関する情報収集と整理	柴田
13	地域連携ケア体制の概念・背景と今後の課題	事前配布資料に関する情報収集と整理	大内
14	要介護・要支援者に対する包括的地域ケアにおける社会福祉士および介護支援専門員の役割	事前配布資料に関する情報収集と整理	大内
15	包括的地域ケアにおける歯科の位置付けと歯科専門職の役割	事前配布資料に関する情報収集と整理	大内
16	ふり返りと総括レポート作成	これまでの学習内容の整理	島田

【成績評価の方法と基準】

各担当教員が課す課題レポート、筆記試験または口頭試問を総合して判定する（100%）。

【使用テキスト・参考図書等】

各担当教員が学術文献、参考資料等を適宜指示・配布する。

【生成 AI の利用について】

本科目では、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

開講番号	260W3204	授業科目名	地域口腔保健福祉学特論				
コーディネーター		黒川孝一（准教授）					
担当教員		大内章嗣（教授） 黒川孝一（准教授） 米澤大輔（准教授）					
開講学期		２	曜／限	木／２、月／６	単位	２	授業形態	講義・演習
講義・演習場所		セミナー室（７F)、フィールド演習					

【科目の概要】

地域社会の特性に基づいた口腔保健福祉活動・施策を推進していく観点から、地域福祉・保健に関する概念、理論および制度等について学習するとともに、地域ニーズの把握、地域ネットワークの形成、施策選択の意志決定過程、評価手法等について検討する。

【科目のねらい】

地域保健医療福祉活動・施策の全体像を理解するとともに、そのなかでの口腔保健福祉活動の現状と課題について検討、学習する。加えて、地区診断、社会調査等の地域ニーズの把握及びそれに基づいた効果的介入方法の開発と評価、施策選択の意志決定課程の分析等に関する研究手法について理解を深める。

【学習の到達目標】

- 地域における健康福祉活動の実際と課題、その歴史的経緯、背景となる理論・手法を理解する。
- 社会心理学的側面からの健康福祉支援方策の開発およびその評価に関する研究手法について理解する。
- 地域における保健医療福祉（介護）施設・職種の役割および需給を含めた実態について理解する。
- 口腔保健福祉活動を推進するための関係機関・関係者のネットワーク構築の実際とこれを支援するための研究の現状と課題を理解する。
- 地域口腔保健活動の概念・理論および国際的見地からみた我が国の取組の現状について理解する。
- 口腔保健活動の効果的介入法の開発・評価に関する研究デザイン、評価・解析方法を理解する。
- 在宅要介護者・施設入所者に対する口腔保健活動が展開されるまでの意志決定過程等を分析し、地域口腔保健福祉活動の課題と効果的な介入方策の開発に関する研究手法を理解する。

【学習方法・学習上の注意】

学術論文、参考資料を用いての講義と演習（フィールド演習を含む）を組み合わせた形式で行う。事前に提示された文献、参考資料をもとに事前に基本的知識を整理したうえで授業に望む必要がある。提示された学術論文、課題以外にも、関連した論文を自主的に検索し、研究デザイン、結果の違い等を考察・整理していくことが望まれる。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	講義　地域健康福祉活動の発達と理論	地域健康福祉活動の要点整理	米澤
2	演習　地域健康福祉活動の実際と課題①	検討事例の要点整理	米澤
3	演習　地域健康福祉活動の実際と課題②	課題の要点整理	米澤
4	演習　地域福祉支援方策の開発と評価	方策の要点整理	米澤
5	講義　保健医療福祉に関する社会資源(施設・専門職)の現状と課題	社会資源の要点整理	大内
6	講義　地域ネットワーク論の発達と今後の展開	地域ネットワークの要点整理	大内
7	講義　口腔保健福祉ネットワークの現状と課題	現状について要点整理	大内
8	講義　地域口腔保健活動の概念と理論	口腔保健活動の要点整理	黒川
9	演習　口腔保健活動の現状とその展開①	検討事例の要点整理	黒川
10	演習　口腔保健活動の現状とその展開②	課題の要点整理	黒川
11	講義　在宅要介護者・施設入所者に対する口腔保健活動の経緯と現状	要介護者口腔保健活動の要点整理	黒川
12	演習　在宅要介護者・施設入所者に対する口腔保健活動の実際	課題の要点整理	黒川
13	演習　事例分析演習①	事例調査	黒川
14	演習　事例分析演習②	事例調査	黒川
15	講義　在宅要介護者・施設入所者に対する口腔保健活動の評価	調査結果のまとめ	黒川
16	ふり返りと総括レポート作成	これまでの学習内容の整理	黒川

【成績評価の方法と基準】

各担当教員が課す課題レポート、筆記試験または口頭試問を総合して判定する（100%）。

【使用テキスト・参考図書等】

各担当教員が学術文献、参考資料等を適宜指示・配布する。

【生成AIの利用について】

本科目では、生成AI（ChatGPT、Gemini等）の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。

1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どのAIを利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

開講番号	260W3205	授業科目名	アカデミックライティング				
担当教員	ジャン・プレゲンズ非常勤講師(ルーテル学院大学教授) Prof. John E. Plagens (Japan Lutheran College)						
開講学期	1	曜／限	金／２	単位	1	授業形態	Zoom を用いたリアルタイム型オンライン授業
講義・演習場所	Zoom						

【科目の概要】

A comprehensive review of writing skills from the sentence level to paragraph and essay construction.

（センテンスレベルから始め、最終的には論文の形式に則した英文が記述できるよう段階的なコースワークにより、適切な英論文を執筆する能力を修得する。）

【科目のねらい】

Students will learn the writing skills necessary for composing a well written essay.

（適切な英論文を執筆するために必要な文章作成技術を修得する。）

【学習の到達目標】

Students will learn the components of the English essay: introduction styles, thesis statements, supporting paragraphs, and concluding paragraphs. Also included will be outlining and self-editing. Each student will submit an essay at the end of the first half of the course.

（・緒言、主題文、支持文、結びなどの英論文に主要な構成要素を理解する。
・自ら英文を要約し、校正することができる。
・学期前半の最後には，小論文を提出する。）

【学習方法・学習上の注意】

Attendance in class is required as there will be in-class writing practice. There will also be homework assignments each time. These will be submitted to the instructor by e-mail.

（・各回においてライティング演習があるので、全ての回に出席すること。
・各回に自主学習の課題を与えるので、インストラクターにメールで提出すること。）

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
4/10	Introduction to sentence types, common errors in English writing. （文章の形式①、よくある誤り）	Text, pp. 170-181	John Plagens
4/17	More on sentence types, introduction to the paragraph. （文章の形式②，文節への導入①）	Text, pp. 182-187, 2-9	
4/24	Further studies on the paragraph. （文節②）	Text, pp. 11-21	
5/ 1	Unity and coherence in the paragraph. （文節の統一と一貫性）	Text, pp. 22-30	
5/15	Introduction to logical connectors. Logical Order. （論理接続の導入,論理的順序）	Text, pp. 31-39, pp.40-41	
5/22	Introduction to the essay. （論文の導入）	Text, pp. 73-85	
5/29	Outlining, essay unity. （概説、論文の統一）	Text, pp. 86-100	
6/5	Free study period （自由課題学習）	Details will be given in class.	

【成績評価の方法と基準】

The essay and take-home tests will comprise 30% of the final grade. The homework is 70%.
（課題論文と持ち帰りテスト 30%、宿題 70%）

【使用テキスト・参考図書等】

Writing Academic English (Fifth Edition), by Alice Oshima and Ann Hogue, Longman（約 4000 円）

【生成 AI の利用について】

トップジャーナルに学ぶ センスのいい科学英語論文の書き方、プレゲンス ジャン E、医学書院（3740 円）

本科目で生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）を利用する場合は、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

開講番号	260W3206	授業科目名	アカデミックリーディングⅡ				
担当教員		ステガロユ・ロクサーナ（准教授）					
開講学期		2	曜／限	水／５、水／６（隔週）	単位	1	授業形態	演習
講義・演習場所		口腔生命福祉学専攻 大学院演習室（C 棟 7F）ほか					

【科目の概要】

口腔保健福祉分野における各研究テーマに関連する英語論文を題材に、個別的なコースワークにより専門用語・表現を中心に英語論文読解力の習熟を図る。

【科目のねらい】

口腔保健福祉分野のなかで、各研究テーマに関連する英語の専門用語・表現および英語論文の構成・論理を理解し、当該英語論文の要点を的確に読解する能力を身につける。

【学習の到達目標】

- 各研究テーマに関連する英語論文で用いられる専門用語・表現を理解する。
- 各研究テーマに関連する英語論文の構成および論理を理解する。
- 各研究テーマに関連する英語論文の要点を正確かつ要領よく読解できる。

【学習方法・学習上の注意】

各研究テーマに関連する英語論文をもとに重要な専門用語・表現、論理構成等について演習形式で学習したうえで、各学生が自らの研究テーマに関連した課題を通して学習する。

【授業計画】

回	講義内容	授業時間外の学修	担当教員
1	ガイダンスおよび口腔保健分野における重要な英語の専門用語学習	口腔保健分野の専門用語の整理	ﾛｸｻｰﾅ
2	福祉分野における重要な英専門用語学習	福祉分野の専門用語の整理	
3	口腔保健福祉分野における英語論文読解演習（英語論文を素早く読み取るための重要なポイント）	詳細は従業で提示する。	
4～7	各研究テーマに関する英語論文読解（個別指導）	各自が自らの研究テーマに関連した英語論文を検索により選択する	ﾛｸｻｰﾅ
8	まとめ	レポート（草案）作成	

【成績評価の方法と基準】

英語論文に関するレポートで判定（100%）する。

【使用テキスト・参考図書等】

必要な英語論文等を適宜に提示する。

【生成 AI の利用について】

本科目で生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）を利用する場合は、レポート作成時に情報収集の補助として利用することは許可するが、レポート本文の主要な部分の作成に利用することは禁止する。なお、利用した場合はその旨を必ず明記し、生成された情報のファクトチェックを各自で行い、最終的な成果物の責任は自身が負うことを徹底する。また、引用する文献は必ず原典を確認し、適切に出典を明記する。

担 当 教 員 名 簿

【口腔生命福祉学講座】

学科長　島田　久幸　教授　　(2026年４月１日現在)

※.niigata-u.ac.jp は省略

氏名	フリガナ	職名	Ｅ－ｍａｉｌ	電話番号
■　福祉学　分野				
島田　久幸	シマダ　ヒサユキ	教授	未定	227-0691
大内　章嗣	オオウチ　アキツグ	教授	ohuchi@dent	227-0551
黒川　孝一	クロカワ　コウイチ	准教授	kurokawa@dent	227-0549
中村　健	ナカムラ　ケン	准教授	nakamura@dent	227-0555
松本　明日香	マツモト　アスカ	助教	matsumoto@dent	227-0553
■　口腔保健学　分野				
（未定）		教授		227-
吉羽　永子	ヨシバ　ナガコ	教授	nagako@dent	227-0697
濃野　要	ノウノ　カナメ	教授	no2@dent	227-2858
野中　由香莉	ノナカ　ユカリ	教授	aoki@dent	227-0550
STEGAROIU　ROXANA	ステガロユ ロクサーナ	准教授	roxana@dent	227-0547
柴田　佐都子	シバタ　サトコ	准教授	sibata@dent	227-0681
米澤　大輔	ヨネザワ　ダイスケ	准教授	yonezawa01@dent	227-0905
諏訪間　加奈	スワマ　カナ	助教	suwama@dent	227-0978
小田島　あゆ子	オダジマ　アユコ	助教	ayuko@dent	227-2021

【医歯学専攻（歯学）】

■　口腔生理学分野　分野（生理学）				
山村　健介	ヤマムラ　ケンスケ	教授	yamamurak@dent	227-2821
■　予防歯科学　分野（予防歯）				
小川　祐司	オガワ　ヒロシ	教授	ogahpre@dent	227-2857
竹原　祥子	タケハラ　サチコ	准教授	takeh@dent	227-2858
KAUNG MYAT THWIN	カウン ミャット トゥイン	助教	kaung@dent	227-2858

■　歯周診断・再建学　分野（歯周）

多部田　康一	タベタ　コウイチ	教授	koichi@dent	227-2869
杉田　典子	スギタ　ノリコ	助教	psugita@dent	227-2871

■　摂食嚥下リハビリテーション学　分野（加齢）

井上　誠	イノウエ　マコト	教授	inoue@dent	227-0733

■　口腔解剖学　分野

大狭　淳	オオハザマ　アツシ	教授	atsushiohazama@dent	227-2816

【非常勤講師】

ジャン・プレゲンズ	ルーテル学院大学	教授	plagens@tka.att.ne.jp